

The background features a light gray gradient with several translucent, colorful spheres (blue, purple, yellow, and green) and thin, curved lines in matching colors, creating a dynamic, futuristic feel.

2016年3月期

説明資料

2016年5月26日

株式会社KSK

CONTENTS

- 1 KSKグループ概要
- 2 業績の概要
- 3 中期経営計画「共創[∞]」
- 4 業績予想
- 5 決算内容
- 6 決算データ

1 KSKグループ概要

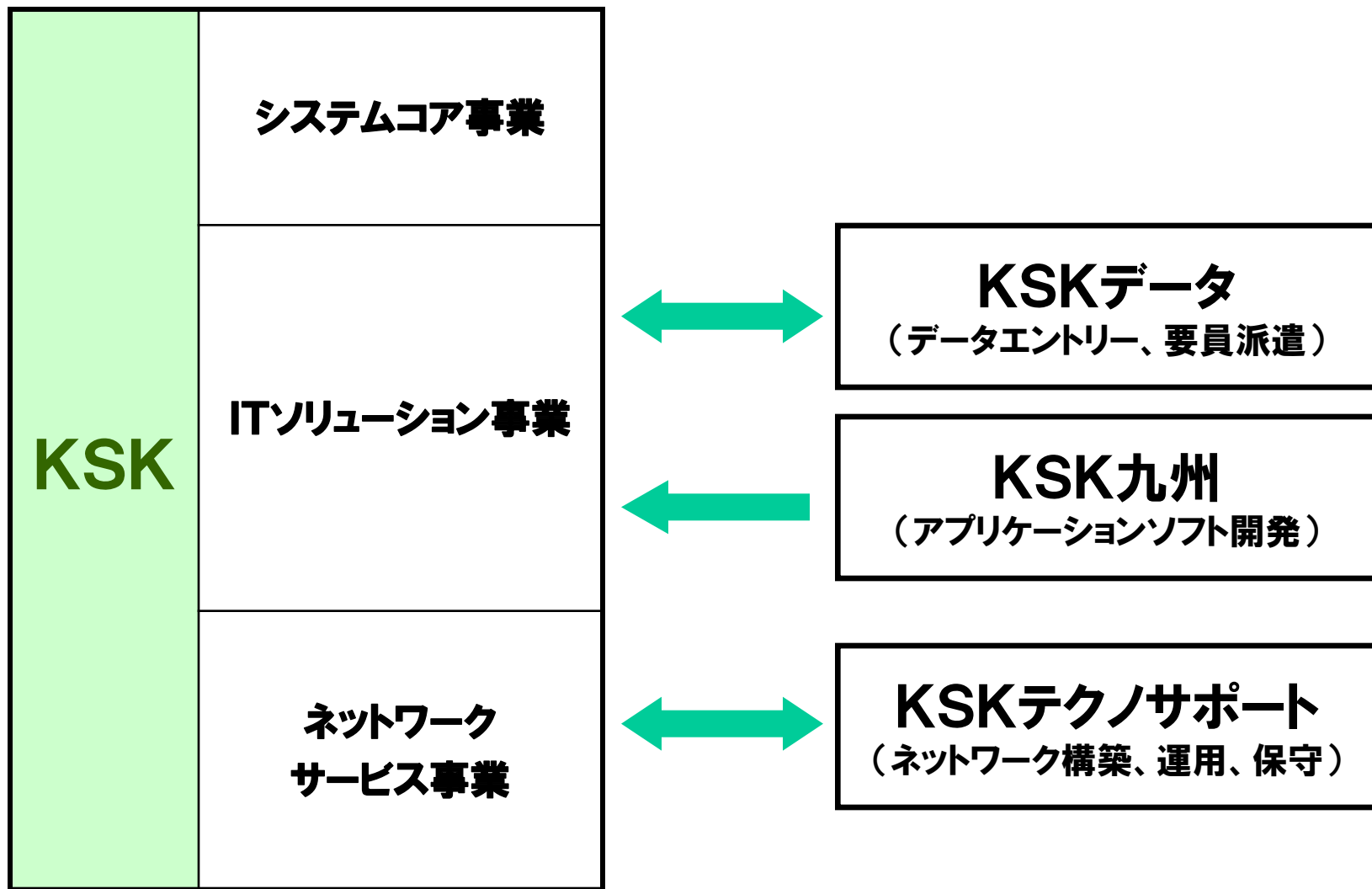
株 式 会 社 K S K

設	立	昭和49年5月23日（1974年）
資	本	金
事	業	① システムコア事業
(	セ	グ
	メ	② ITソリューション事業
	ン	③ ネットワークサービス事業
	ト	
従	業	員
本	社	数
事	業	所
		1,717名（連結 2016年3月末現在）
		東京都稲城市百村1625-2
		東京本社, 日本橋, 新宿, 川崎, 埼玉, 浜松, 刈谷, 関西, 熊本



K S K グ ル ー プ 会 社

株式会社KSKテクノサポート	東京都稲城市	ネットワークサービス事業
株式会社KSKデータ	埼玉県さいたま市	ITソリューション事業 等
株式会社KSK九州	熊本県熊本市	ITソリューション事業

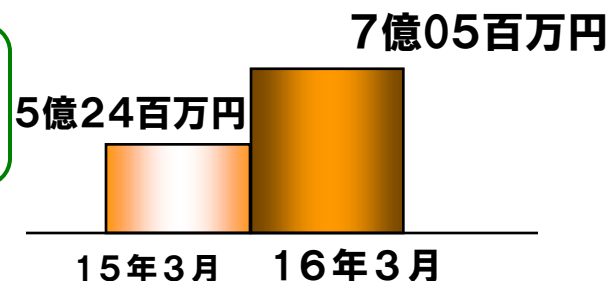
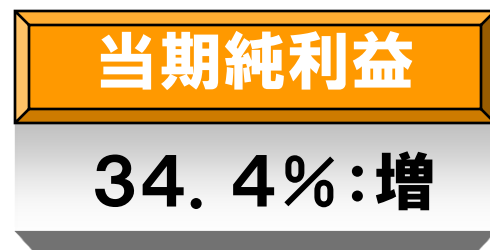
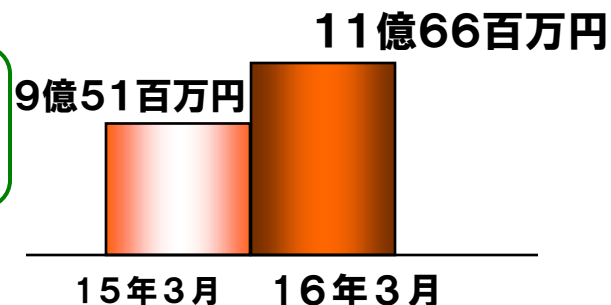
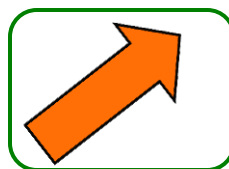
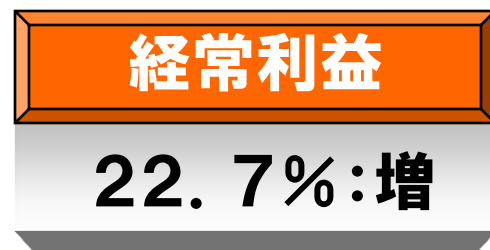
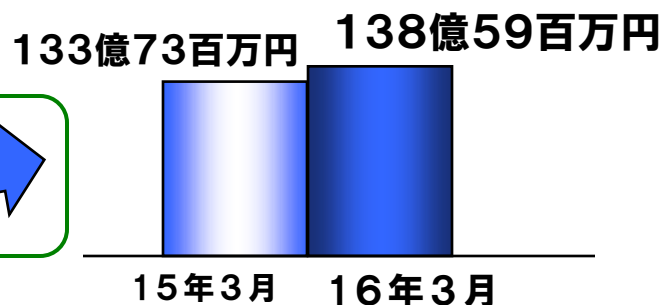
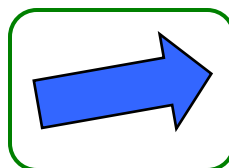
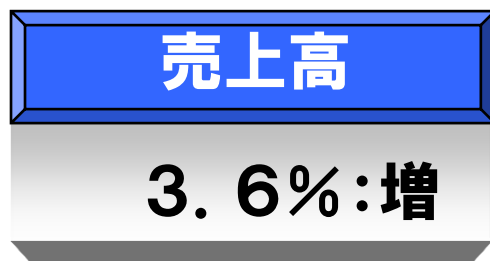


2 業績の概要

2-01 前年同期との比較

前年同期比で増収増益

2016年3月期 連結

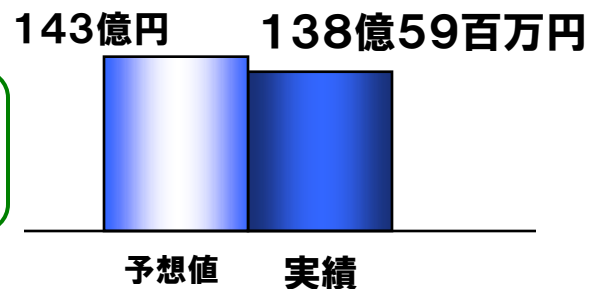
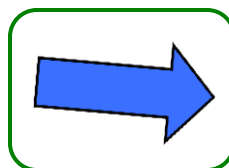


2-02 予想値との比較

利益は当初予想値を上回る

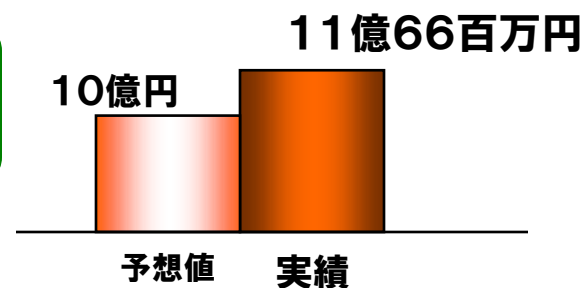
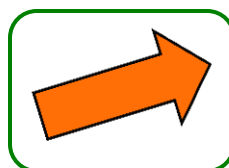
売上高

97%達成



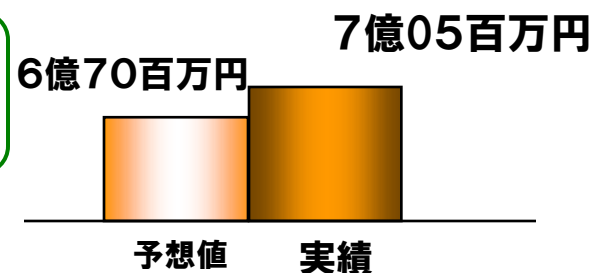
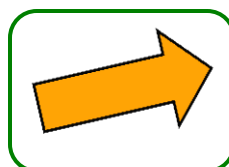
経常利益

117%達成



当期純利益

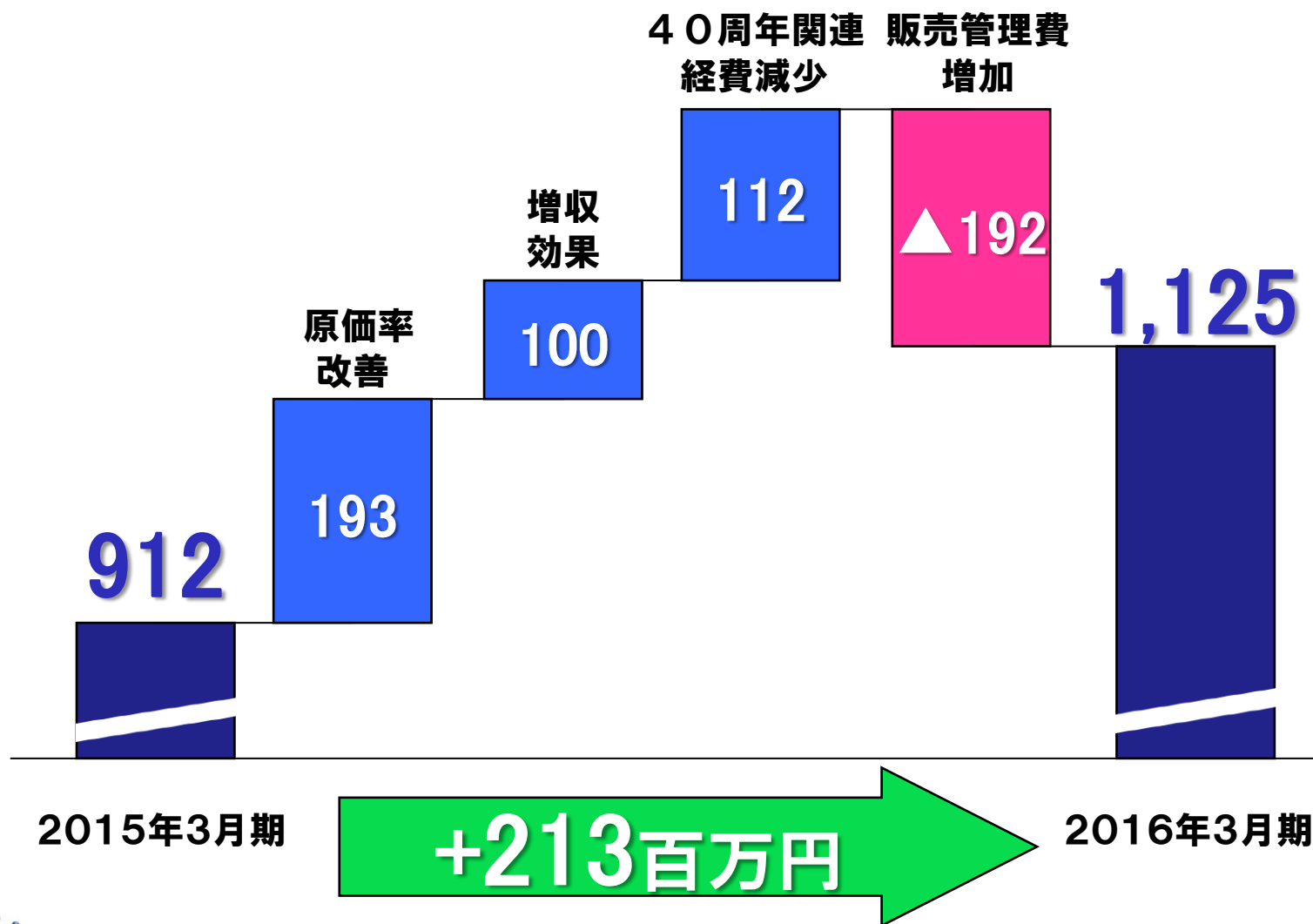
105%達成



2-03

営業利益の増減要因(前期比)

(単位:百万円)



2-04

販売費及び一般管理費の分析

■主要項目の推移

(単位:百万円)

項目	2013年度実績	2014年度実績	2015年度実績	2年間の増減額
採用費	136	162	199	63
教育図書費	107	115	128	21
研究開発費	65	65	69	4
減価償却費	63	54	66	3
その他	1,268	1,182	1,264	△4
計	1,639	1,578	1,726	87
売上経費比率	12.6%	11.8%	12.5%	△0.1%

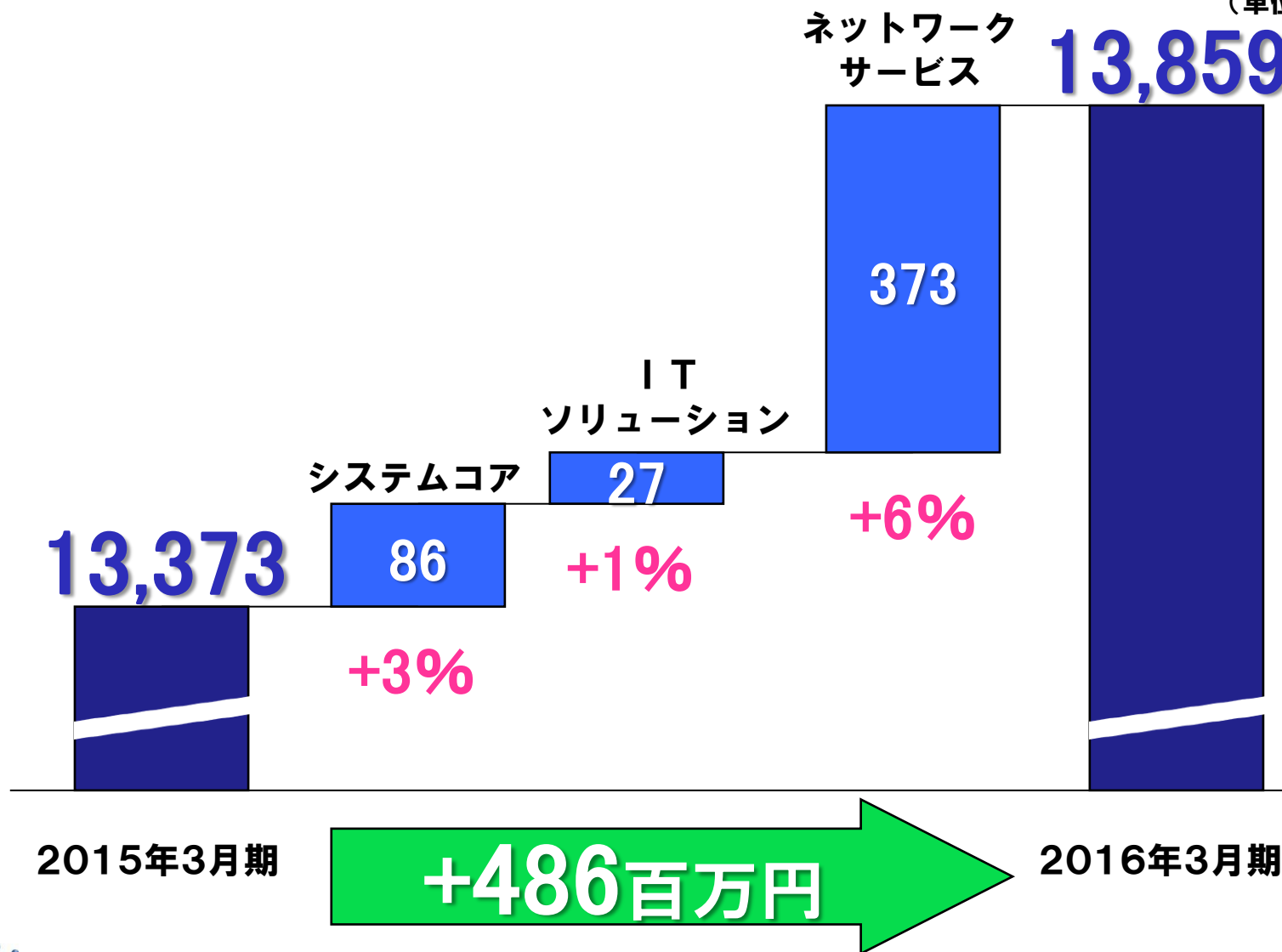
- 採用費は採用人数の増加に加え、採用環境の変化により年々増加傾向
- 教育図書費は各階層毎に必要な能力を身につけさせるための研修強化で増加
- 他の投資関連費用は微増だが、その他諸経費は抑制し経費比率を維持

将来への投資を行いつつ経費比率は維持

2-05

セグメント別売上増減(前期比)

(単位:百万円)

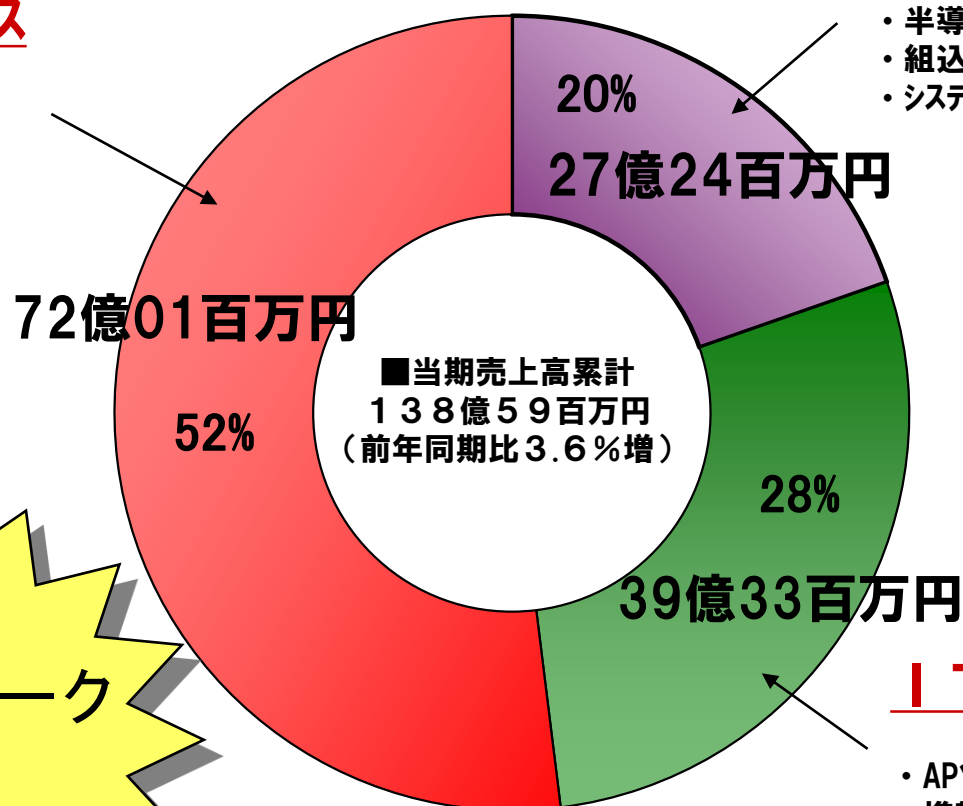


ネットワークサービス

- ・ネットワークシステム構築
- ・ネットワーク保守
- ・サポートセンター

システムコア

- ・半導体設計、システムLSI
- ・組込ソフトウェア開発
- ・システム設計、装置設計



ITソリューション

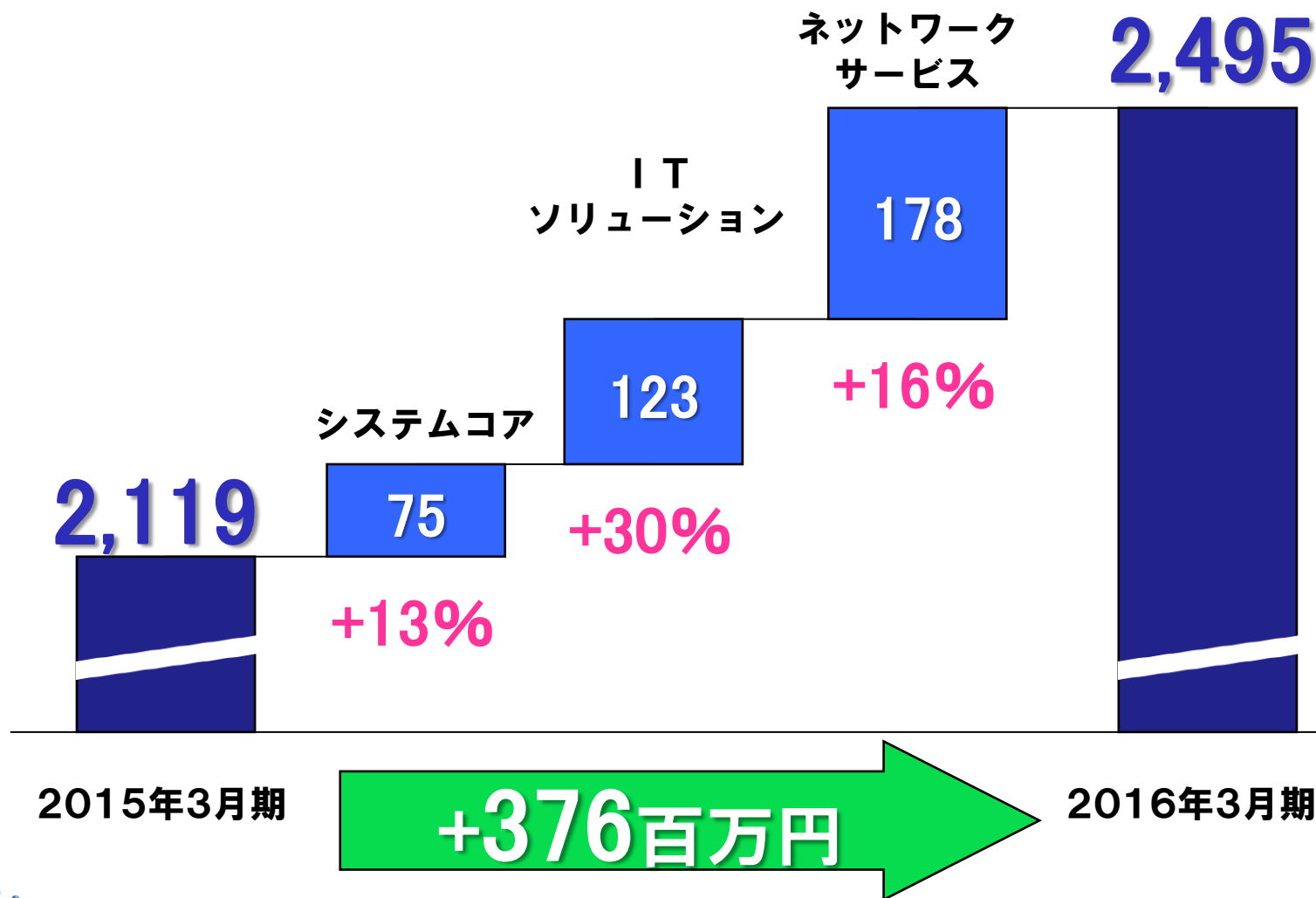
- ・APソフト開発・保守
- ・携帯用Web関連ツールソフト
- ・自社PKGソフト
- ・健康保険組合、自治体への派遣
- ・データエントリー

ネットワーク
が5割超

2-07

セグメント別利益増減(前期比)

(単位:百万円)



ネットワークサービス

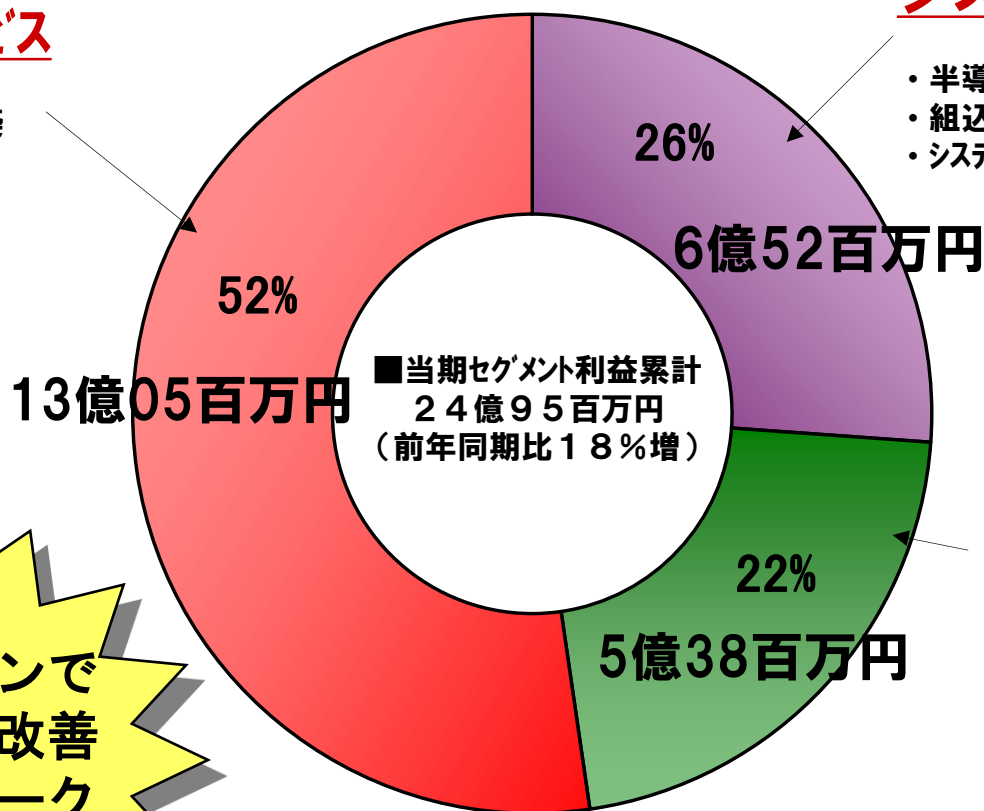
- ・ネットワークシステム構築
- ・ネットワーク保守
- ・サポートセンター

システムコア

- ・半導体設計、システムLSI
- ・組み込みソフトウェア開発
- ・システム設計、装置設計

ITソリューション

- ・APソフト開発・保守
- ・携帯用Web関連ツールソフト
- ・自社PKGソフト
- ・健康保険組合、自治体への派遣
- ・データエントリー



各セグメントで
利益率が改善
ネットワーク
は続伸

(単位:百万円)

	売上高		利 益			
	売上高	前年同期 増減比	セグメント 利 益	前年同期 増減比	売上高比	前年同期 増減
システムコア	2,724	3.2%	652	12.9%	23.9%	+2.0P
IT ソリューション	3,933	0.7%	538	29.5%	13.7%	+3.1P
NWサービス	7,201	5.5%	1,305	15.9%	18.1%	+1.6P
合 計	13,859	3.6%	2,495	17.7%	18.0%	+2.2P

●システムコア事業(増収・増益)

- ・半導体設計業務は需要が拡大し、受注単価改善で収益性も向上。
- ・車載関連ビジネスの比率が増加し、売上・利益ともに大幅に伸長。
- ・試験装置開発業務は受注減が続くものの、収益性は改善傾向。

●ITソリューション事業(増収・増益)

- ・ソフトウェア開発業務は、稼働率が改善され収益性向上。
- ・新規開発案件の一部に先送りが発生。
- ・新規事業の立ち上げに遅れあり。

●ネットワークサービス事業(増収・増益)

- ・安定した需要に支えられ、売上・利益ともに全体の過半数を占めるまでに成長。
- ・通信キャリア向け業務の需要減に伴い、技術者シフトで稼働率がやや低下。
- ・予定した一部の新規案件は、要員の確保が困難なため実現せず。

システムコア事業

IoT時代の多分野の開発に関与
特に車載分野ビジネスが伸長

車載分野ビジネス: 重点分野の位置づけ

- ・車載用マイコン開発
- ・走行系/安全系/
駆動系/情報系など
の組み込みソフト
ウェア開発

ヘルスケア
・部品の機械設計

重機
・コクピットの構造設計

インテリジェント家電
・汎用マイコン開発

PC向け半導体
・メモリデバイス

スマートフォン向けの各種ファームウェア
・デバイスドライバー、
アプリケーションソフトウェア開発

2-12 セグメント別トピックス(ITソリューション事業部)

ITソリューション事業

建設業向けスマートデバイス対応強化と マルチデバイス対応Webコンテンツ変換ツール

住宅マネージャースマートデバイス対応強化



当社の建設業向けERPである「住宅マネージャー」に住宅ビルダーのお客様であるお施主様とのアフターメンテナンスにおけるコミュニケーションツールとして、外部ポータルサイト機能とチャット機能を追加しました。
お施主様からのアフターサービス依頼は、スマホからチャット機能により写真等も送れますので、内容を的確に把握し、訪問前の準備も万全です。
住宅ビルダーにとり、生産性が向上すると同時にCSが高まり、紹介も増えていきます。

pronel マルチデバイス対応 ウェブサイト変換ソリューション

ひとつのHTMLソースをもとにして、あらゆる
デバイスに最適化されたウェブコンテンツを配信

- * 運用中のウェブサイトスマートフォンに対応させたい
- * マルチデバイスに対応したウェブサイトを新規に構築したい
- * 社内システムをモバイルデバイスでも利用できるようにしたい



pronel(プロネル)は、ひとつのHTMLソースを変換して、ウェブサイトのユーザーインターフェースをあらゆるデバイスに最適化させることができるミドルウェアです。
作成／管理すべきHTMLソースがひとつだけで済むため、サイト利用者に快適なユーザー体験を提供しながら、マルチデバイスに対応したウェブコンテンツの開発・運用管理工数を大幅に削減させることができます。

ネットワークサービス事業

大規模金融システムの設計構築

■大規模構成

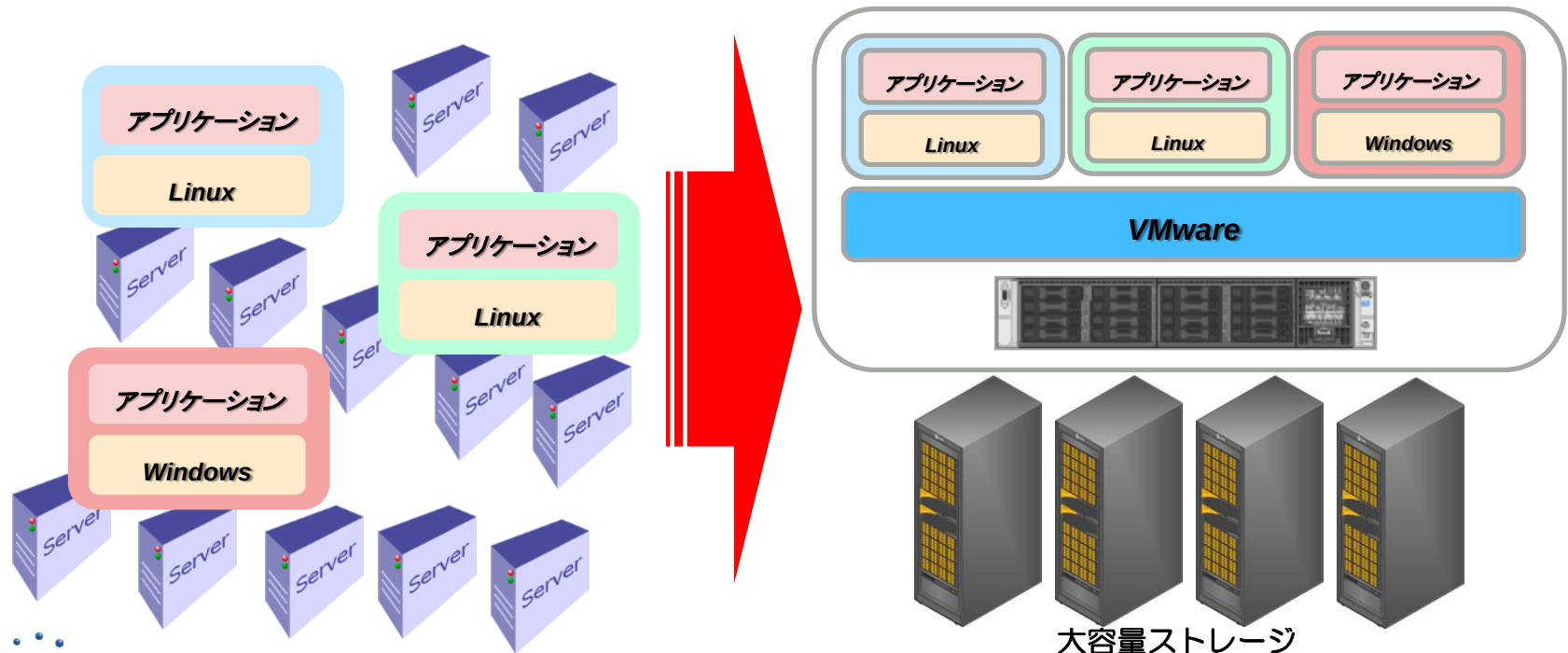
40システムを結合した大規模システムを12年～15年の3年間で構築。15年度以降機器増強などに伴う追加案件受注

■最先端技術の活用

常に最新のソフトウェアやファームウェアを導入し、最新のIT技術を全面的に採用して統合化

■高い信頼性

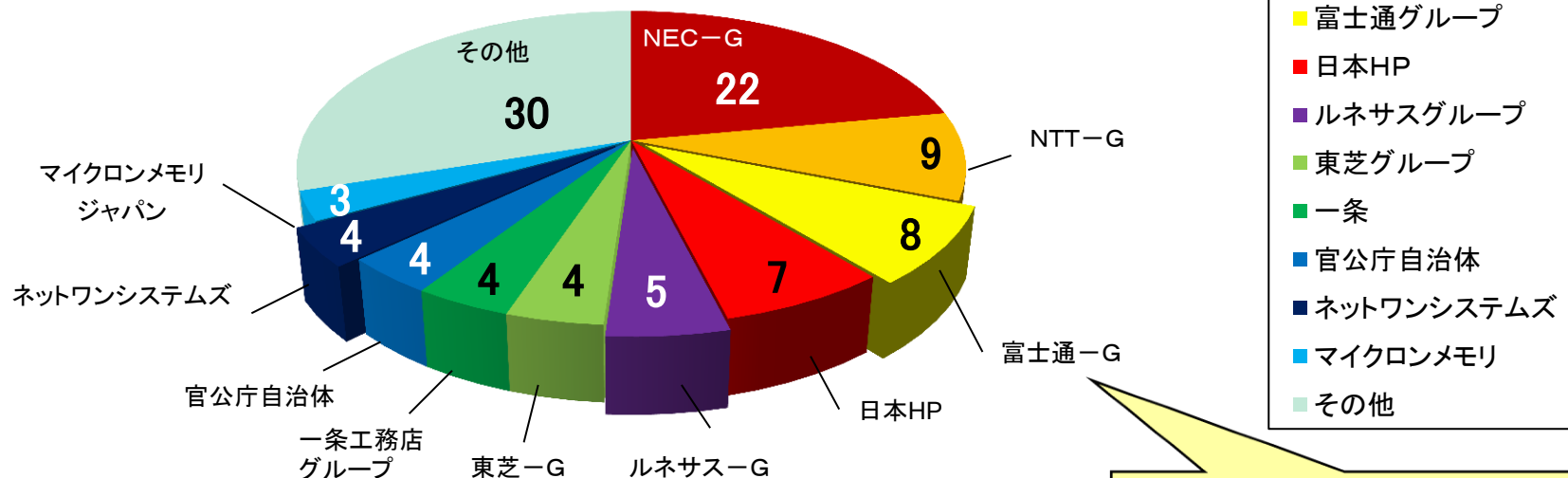
システムの一元管理を行うため、VMware、Linux/Windows、最新ストレージ、ADを組み合わせで設計・構築を行い、従来のシステム構成では見られない、安定性・運用可用性を実現



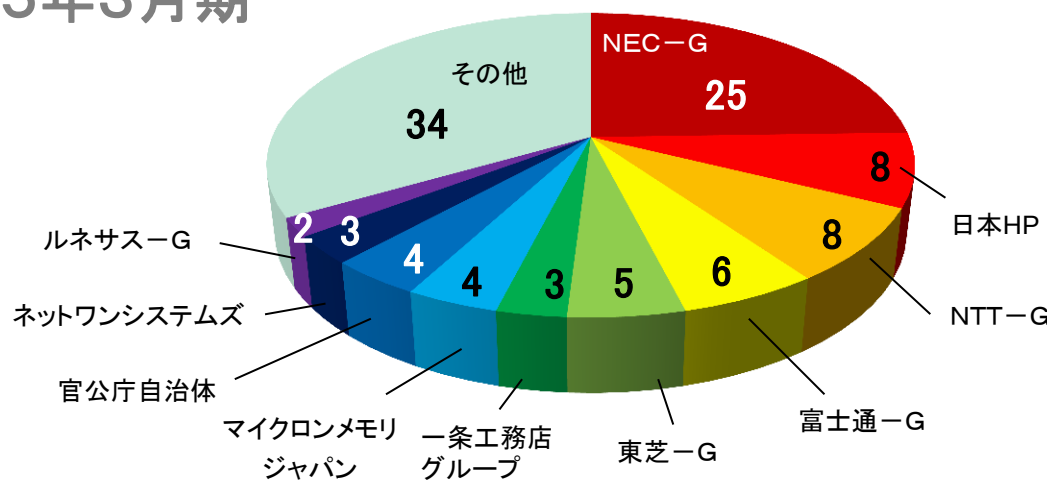
2-14

お客様別売上構成比(連結)

2016年3月期



2015年3月期



お客様別売上高構成の変動

以下のお客様のシェアが上昇しています。

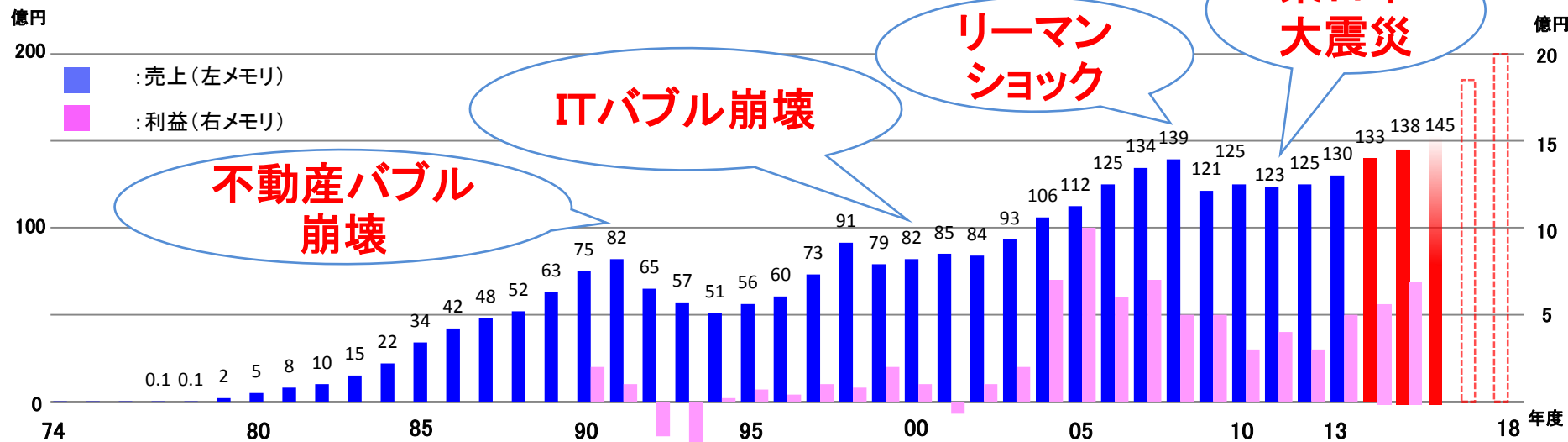
- ・ルネサスグループ様
- ・富士通グループ様
- ・ネットワンシステム様

3

中期経営計画「共創[∞]」

3-01

KSKグループ40年の変遷



74 創業(サンユウ商事)

79 国際システムに商号を変更・IT事業へ転換

84 本社を西新宿に移転

揺籃期

90 店頭公開

94 本社(東京技術センター)を稲城市に移転

99 KSKデータ設立

00 KSKテクノサポート設立

成長期

03 チーム制導入

04 30周年・商号をKSKに変更・シンボルマーク変更

05 KSK九州設立

05 中計スタート(PLANET 30)

08 中計スタート(構想21)

09 CS向上への取組み開始

11 中計スタート(基軸V40)

変革期

14 新中計スタート

15 ブランドメッセージ制定

発展期



Team – Creation

共創 

(2014 ~ 2018)

この10年間、最も力を
入れてきたことは

“現場力の強化”

強い現場力

・VOC ・CSI
・Bagus ・CS委員会
・CS講演会

CS向上

4th
ステージ

・BIC制度 ・Smile Card
・読書会 ・ECOクラブ ・経営理念
・行動規準 ・KSK Credo
・Eサーベイ ・5S ・禁煙風土

風土変革

3rd
ステージ

・Hasp ・SDP ・トップガン
・セミホーダイ ・G-com
・7つの習慣

人材育成

2nd
ステージ

・チャレンジ3 ・モデルBU
・気づき日報 ・K-square
・チームカサーベイ ・BPA

2003年6月

チーム制

1st
ステージ

マネされない強みを磨く

1. 現場力

- ・チームワーク
- ・社員の人間力
- ・CS

2. 人材育成力

3. 3つの事業領域

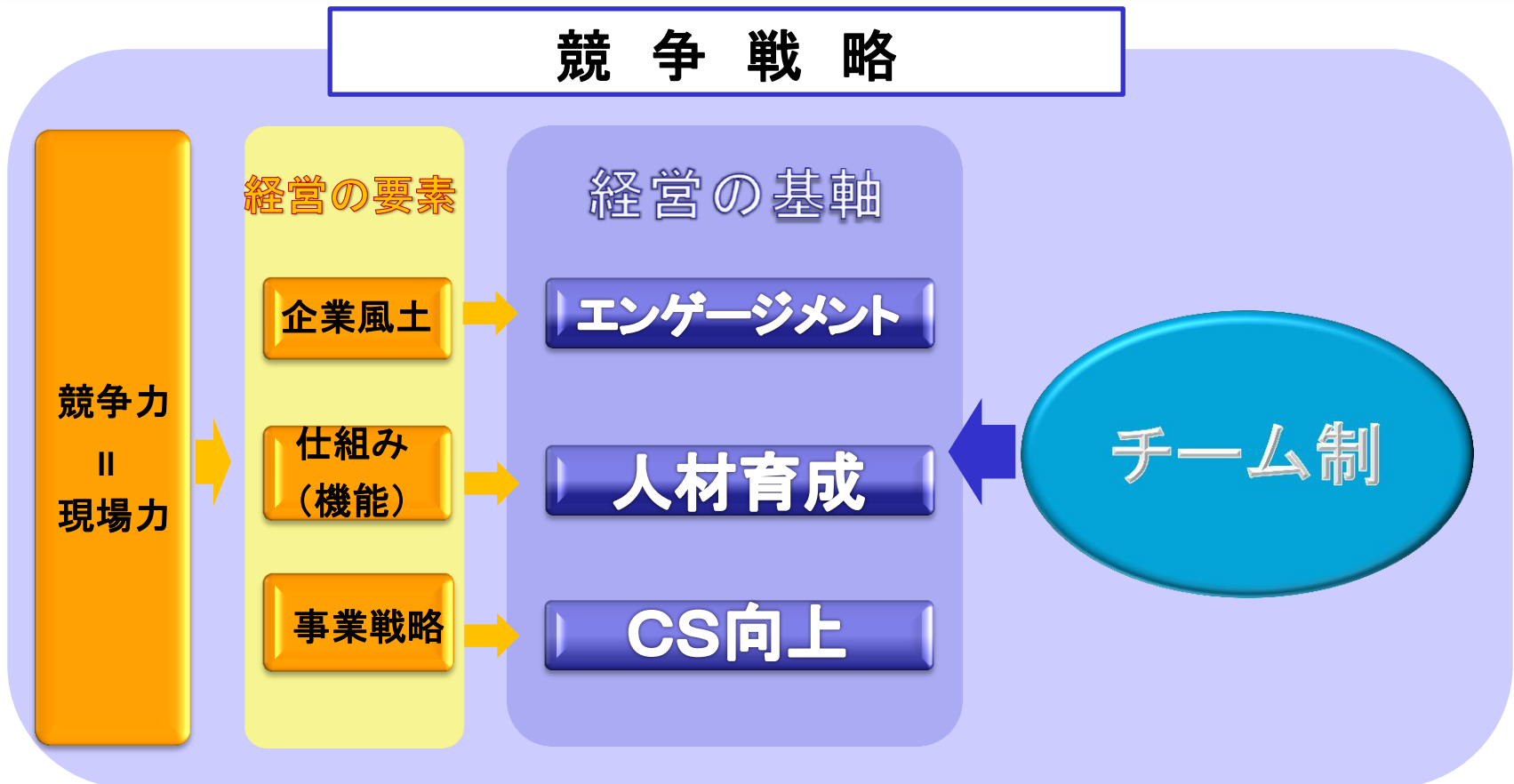
4. 財務基盤

Our vision

1. 社員が価値観を**共有**している
2. **長期的**視点に立って**質重視**の経営をしている
3. 人と組織が**信頼と共感**でつながっている
4. **お客様**から評価されている
5. **社会**から支持されている
6. 社員が**誇り**を持って仕事をしている

KSKグループは量から質への転換を図るため、「エンゲージメント(企業風土)」「人材育成(仕組み)」「CS向上(戦略)」を経営の基軸と位置付け、エクセレントカンパニーを目指し将来にわたり継続的成長を実現する

競争戦略



チーム制の理念

- ◆現場を強くすることでKSKグループの**競争力**を高めます(会社)
- ◆ビジネスの実践を通して社員一人ひとりが**自己実現**を図ります(従業員)

チームの機能

1. 協働の場

プロジェクトチーム、生産性の追求

・仕事の成果を出す

2. 成長の場

仕事と交流を通じた自己研鑽

・刺激し合い、切磋琢磨する

3. 帰属の場

自分の居場所としてのコミュニティ

・自分の存在を認められる
・自分の理解者がいる
・本音を出せる
・安らぎを感じる

企業風土としてエンゲージメントを形成することで、組織と個人の成長が連動し
両者の価値観が統合され、お互いに貢献し合える関係が形成される

風 土 づ く り

組織(会社)と個人(社員)の
エンゲージメント(絆)を形成する

1. 個人のやる気を引き出す

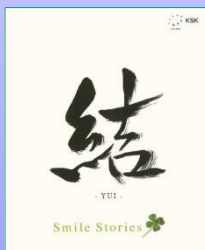
・働きがいのある環境づくり

2. 価値観を共有する

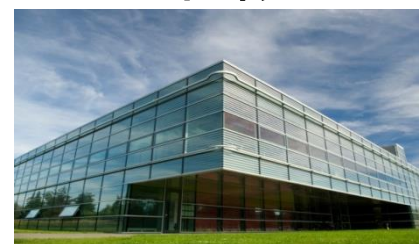
・価値観の形成、浸透、共有
・ビジョンの共有
・人間力の向上

3. 共感を高める

・見える化
・場の設定
・コミュニケーション



組織



貢献

支援



個人

Team KSK ECO CLUB



稲城/東京本社周辺清掃活動(2016年2月)

社内ボランティア組織のエコ活動をKSKが物心両面で支援



グループ社員同士が、絆や誇りを持てる企業風土を共有するために、社会貢献と環境保護をテーマにした活動



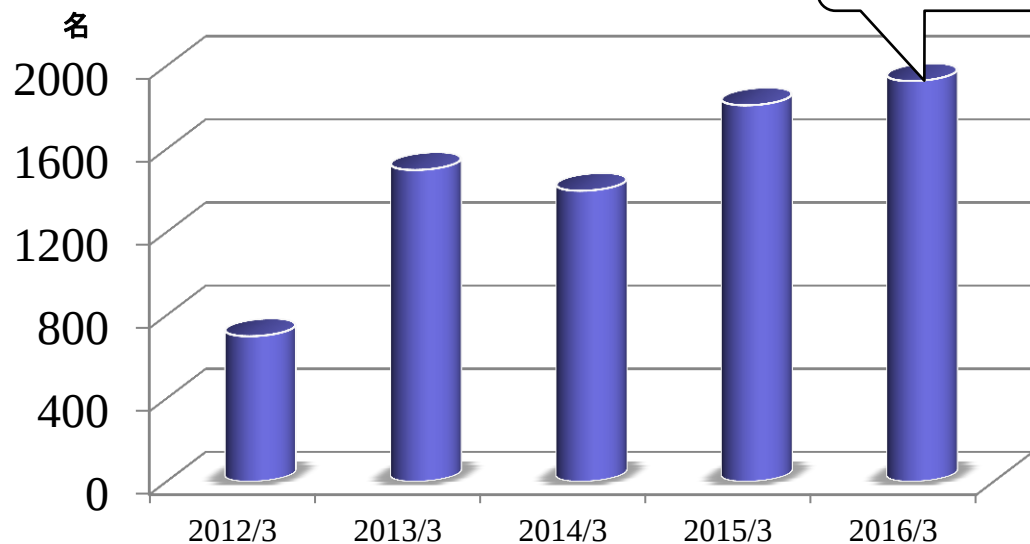
社会への無償の貢献実感が自らの存在意義の確認を経て誇りへとつながる

本社のある稲城市と共に道路・公園・緑地などを協働 管理することを目的とする【アダプト制度】に申請し、地域環境の整備と良好な地域コミュニティの形成に貢献



BIC (KSK BBQ Invitation Card) 制度とは、メンバーとバーベキュー (BBQ)を通じて、互いに協力し交流を深めようという制度です。

利用者数の推移



共食のススメ

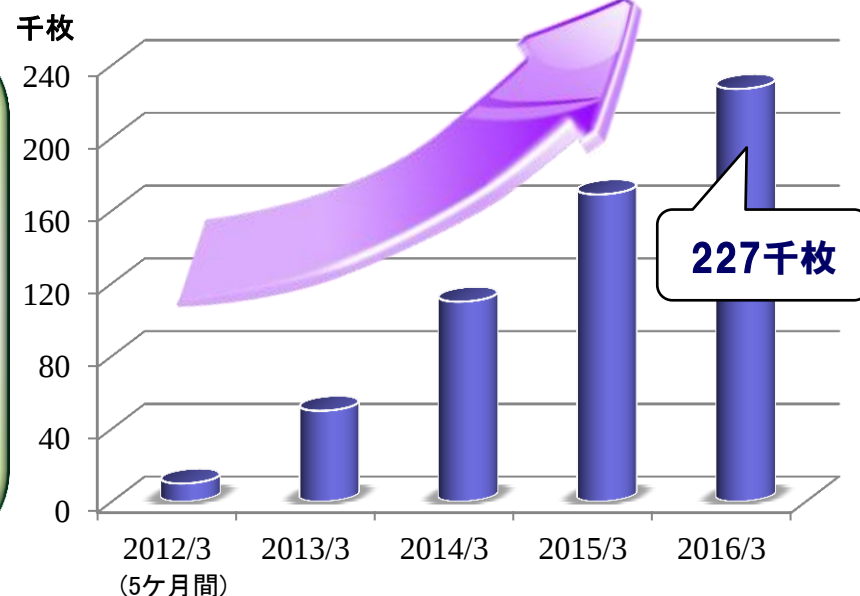
エンゲージメントを高める明るい職場づくりの施策として
“**ありがとうの気持ち**” を伝える
《**スマイルカード**》を全社展開

『ありがとう』
の言葉の連鎖が
結束力を強める

讃え合う良い風土

- 😊 お互いを褒め合うことでお互いの良いところを伸ばし合う
- 😊 相手への関心が良きチームワークへとつながる
- 😊 感謝し合うことの積み重ねが相手を思いやる気持ち、助け合う職場をつくる

Smile Card発行枚数の推移



3-11 経営の基軸:エンゲージメント 読書会

その人が読んでいる本を知ることは、**その人を知ること**である

■ 累計10,500冊以上を配付



3-12 経営の基軸:エンゲージメント 5S活動

「5S活動」によって、規範意識の高い**企業風土**をつくる

5S活動は、『徹底した**ムダの排除**であり、
問題点を顕在化して問題解決する**体質づくり**』

5Sをやって
心がきれいに
なりました



～単なる美化運動でも掃除だけでもない～ ⇒ 5Sの真髄は「見える化」

全拠点が合格点をクリアし、「**5S GOLDクラブ**」の認定を受けました。
更にオンサイト(お客様フロア内)でも、初の認定チームができました



そして、更なる高みを目指し「**5S PLUTINUMクラブ**」を
創設、今年度認定チーム第1号が誕生

今後はマネジメントの見える化で、問題解決に取り組
んでまいります

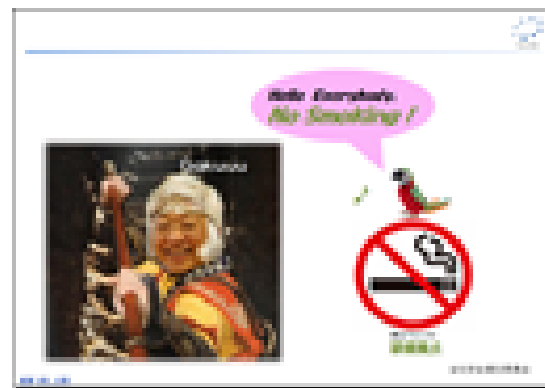
「健全でECOな**禁煙風土**」をつくる

【活動の目的】

1. 自分の健康や環境に対して高い意識を持つ「**いい人の集団**」になる
2. いい人の集団として「**品格ある企業**」を目指す
3. 結果として、KSKグループの「**長期的、継続的成長**」を実現する

【主な活動内容】

1. オリジナル「**禁煙ポスター**」の展開(常時内容更新)
2. 「**禁煙メルマガ**」の定期発信(2回/月)
3. 「**禁煙アンケート**」の定期実施(1回/月)
4. 「**禁煙Credo**」の制定
5. 「**禁煙外来治療費**」の補助
6. 「**らくらく禁煙コンテスト**」への参加費補助
7. 喫煙者を「**採用対象から除外**」
8. 「**リバウンド相談窓口**」の設置



喫煙者：483名 (2013/4月) ⇒ **0名** (2015/11月)

目標達成

KSKグループは従業員の健康増進を経営の重要な課題として捉え、従業員の健康の維持・増進と企業生産性の向上を目指します

三位一体の人づくり

心（人間力）

技（知識・技術・スキル）

体（心身の健康）

2014 年 10 月15 日宣言

KSKグループの長期的、継続的な成長を実現するためには、
その主体であるKSKグループの従業員一人ひとりの健康が不可欠であると考え、
「健康経営宣言」を掲げています。

「心(人間力)・技(知識・技術・スキル)・体(心身の健康)」三位一体の人づくりに
会社、従業員が一丸となって取り組んでまいります。



「健康戦略の発想と着眼点」 大和総研経営コンサルティング本部(編)



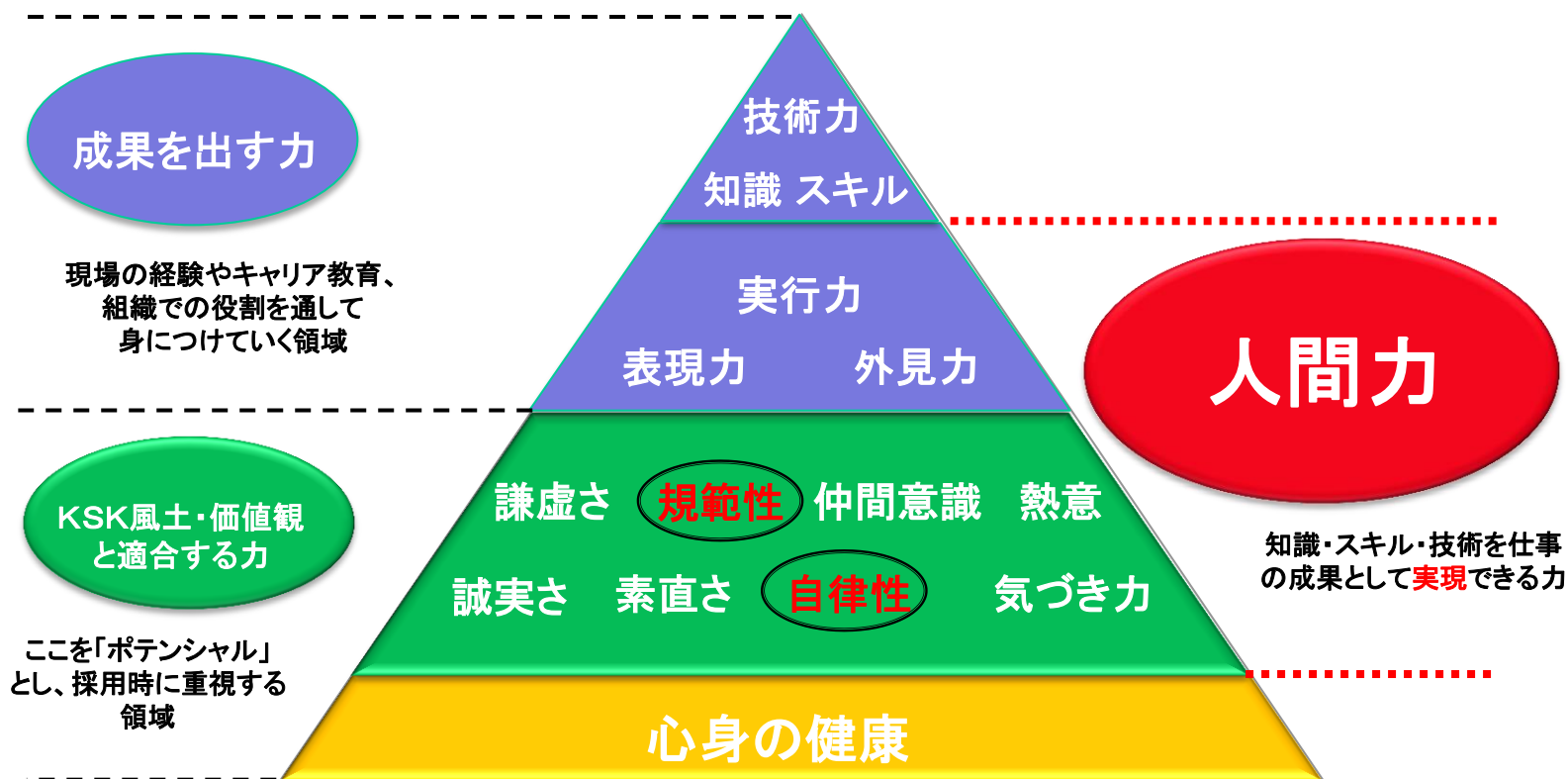
■「社員の健康」「多様性の受容」「人件費＝投資」という3つの視点から企業が取り組むべき課題を考察

■ K S Kの**禁煙推進運動**をはじめ各種取り組みが**約20ページ**に亘り取り上げられる

■人間力教育

継続した人材育成により一人ひとりが人格（人間性）を高め人間力の高い集団を形成する

基本的考え方：サービスの質は人間の質そのものである



【自律できる技術者の育成】

人間力研修	技術研修
新入社員向け	システム・ネットワーク分野
若手社員向け	ソフトウェア分野
中堅社員向け	組込みソフトウェア分野
管理者向け	ハードウェア分野

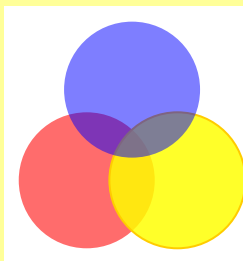
年間カリキュラム(120種)

【教育機関の設置】

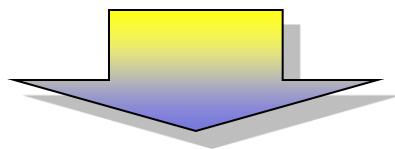
専任講師： 6名
 研修設備： 300席
 12教室、研修寮あり



以下の要素を三位一体で提供する



- **技術** (QCD)
- **信頼** (安全・安心・誠実)
- **快適** (ホスピタリティ)



CS向上の基本方針



- **期待** 以上
- **役割** 以上
- **報酬** 以上

お客様に
感謝と
感動を！

3-19 経営の基軸:CS向上 VOC(お客様アンケート)

VOC 【Voice Of Customer】

目的

お客様の評価(声)に対する改善活動を行い、お客様の不満点を解決し、業績向上につなげる。

方法

- 重点顧客、戦略顧客を現場が選定する
- 定点調査(毎年同時期、原則同じ質問)

項目

- 管理者・営業対応 ■技術力 ■トラブル対応等
- 技術者の人間力 ■セキュリティ 合計24項目

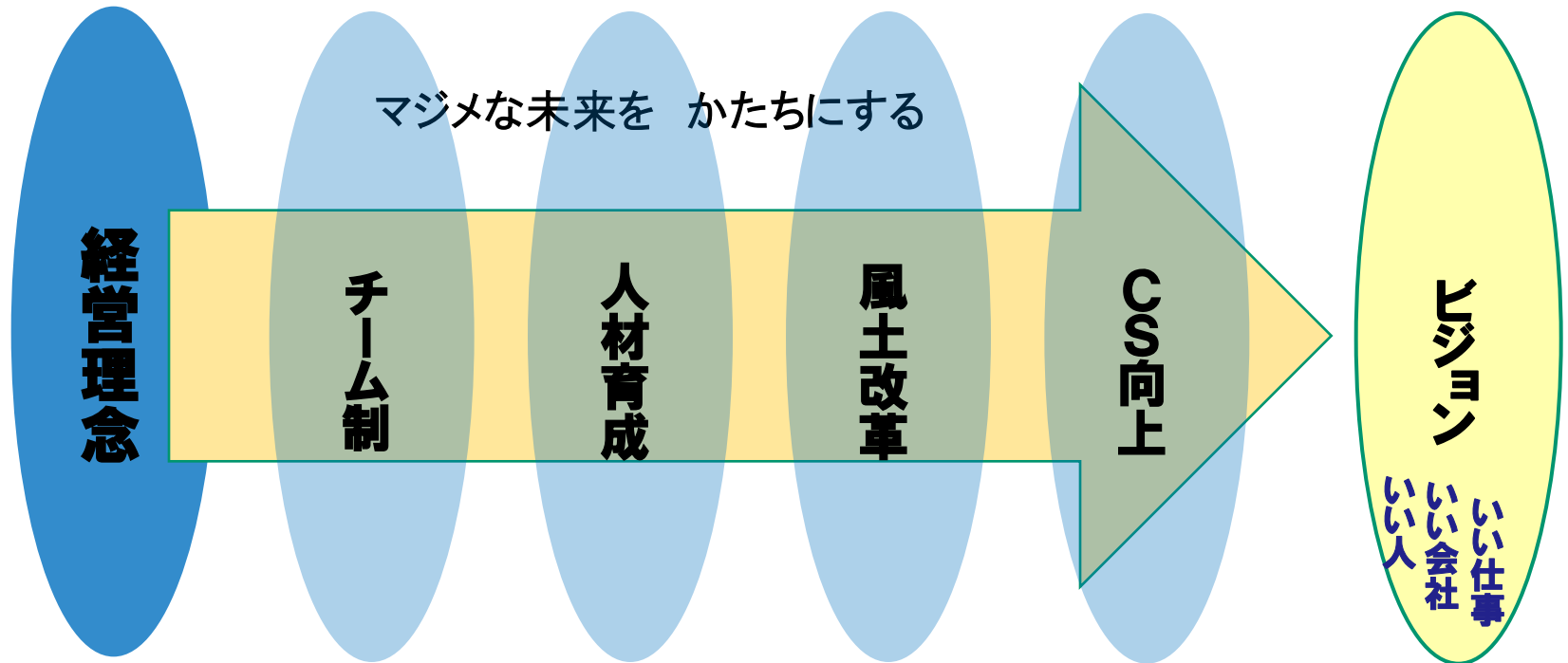


調査件数

- 2015年度 発送 344件
回収 341件 (回収率99.1%)

ブランディングによって

経営理念が示す会社の方向性を表す軸に沿って各施策が統一感と一貫性を持って整然と実施され、ビジョン達成に向けてそれらの取組みが磨きあげられる

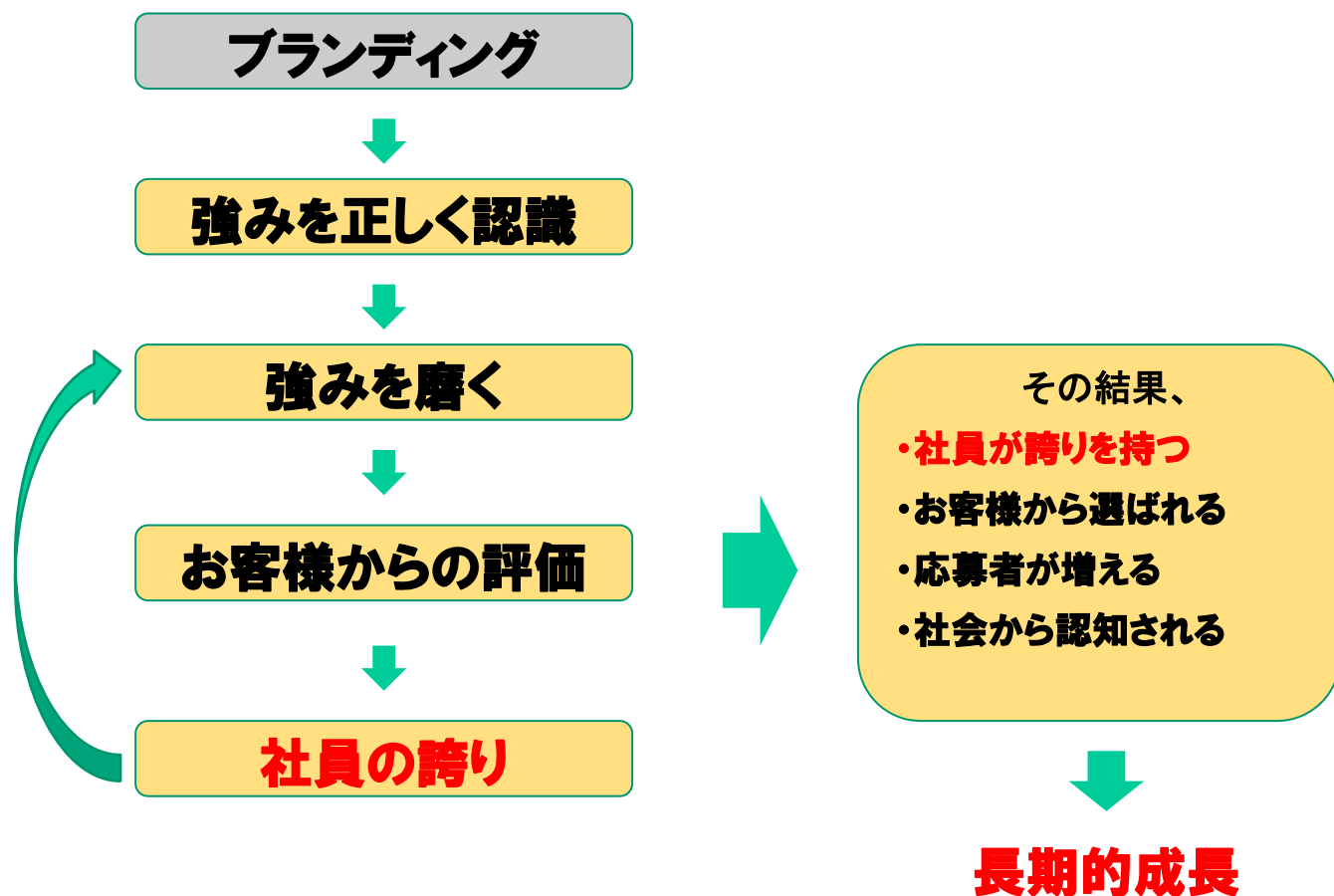


敬天愛人

アイデンティティ(=KSKらしさ・強み)の発信
理念と施策の統一感と一貫性



社員が誇りを持つ





マジメな未来を かたちにする

We are Team KSK

コミットメント

健全で活力みなぎる風土といい人の集団が生み出す質の高い価値により
持続的な成長を確かなものとし ビジョンの実現を約束します

メッセージに込めた想い

社員一人ひとりがチーム一丸となって
お客様の未来(成長 夢 希望 ビジョン)に向けて
正しい努力を真剣に本気で誠実に続け
着実に成果を積み上げていきたい
と考えています

そして お客様と共に創る未来は
健全で調和がとれ次世代に安心して受け継いでいける
マジメな未来でありたい

その想いをこのブランドメッセージに込めています

4 業績予想

(単位 : 百万円)

	2016年3月期	2017年3月期 (予想)	対前期比
売 上 高	13, 859	14, 560	105. 1%
営 業 利 益	1, 125	1, 160	103. 1%
経 常 利 益	1, 166	1, 195	102. 4%
当 期 純 利 益	705	765	108. 4%
配 当 金	35	37円	+2円

(単位 : 円)

	2015年3月期	2016年3月期 (予定)	2017年3月期 (予想)
配 当 金	25	35	37
配 当 性 向	30.1%	30.9%	30.0%

新中期経営計画「共創∞」の導入を機に配当政策を見直し、今後の配当決定に当っては連結業績を基準に、配当性向30%を目処に配当を実施することを基本方針としております。

2016年3月期は前期と比べ10円増配し、35円を予定しています

5 決算内容

(単位 : 百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	対前期比	備考
売上高	13,373	13,859	103.6%	
販売費及び一般管理費	1,578	1,726	109.4%	
営業利益 (営業利益率)	912 (6.8%)	1,125 (8.1%)	123.3% (+1.3P)	
経常利益 (経常利益率)	951 (7.1%)	1,166 (8.4%)	122.7% (+1.3P)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	524	705	134.4%	
総資産	12,048	12,500	103.8%	
株主資本	8,411	8,867	105.4%	
1株当り純利益	82円96銭	113円40銭	136.7%	潜在株式調整後は112円39銭
1株当り純資産	1,347円62銭	1,426円08銭	105.8%	
自己資本比率	70.6%	70.9%	+0.3P	
期末配当金	25円	35円	+10円	

(単位：百万円)

	2015年3月期			2016年3月期			対前期比		
	売上高	売上利益	売上利益率	売上高	売上利益	売上利益率	売上高	売上利益	売上利益率
K S K	10,117	1,891	18.7%	10,585	2,278	21.5%	105%	387	+2.8P
K S K テクノ サ ポ ー ト	2,350	480	20.4%	2,406	475	19.7%	102%	-5	-0.7P
K S K データ	748	93	12.4%	729	76	10.4%	97%	-17	-2.0P
K S K 九 州	157	24	15.3%	139	27	19.4%	89%	3	+4.1P

子会社の業績概要

- KSKテクノサポート
- KSKデータ
- KSK九州

売上は微増となったが、一部で稼働率が低下したため利益率が低下
 売上が減少し、採算性の低い案件があったこと等により利益率も低下
 売上は減少しているが、原価低減により利益率は改善

6 決算データ

(単位:百万円)

科 目	2015年3月期	2016年3月期
売上高	13,373	13,859
売上原価	10,882	11,007
販売費及び一般管理費	1,578	1,726
営業利益	912	1,125
営業外収益	39	42
営業外費用	1	1
経常利益	951	1,166
特別利益	-	-
特別損失	3	15
税金等調整前当期純利益	947	1,151
法人税等	422	445
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	524	705

(単位:百万円)

科 目	2015年3月期	2016年3月期
(資 産 の 部)		
流 動 資 産	9,164	8,510
固 定 資 産	2,883	3,989
有 形 固 定 資 産	654	632
無 形 固 定 資 産	131	137
投 資 そ の 他 資 産	2,098	3,219
資 産 合 計	12,048	12,500
(負 債 の 部)		
流 動 負 債	2,338	2,239
固 定 負 債	1,176	1,352
負 債 合 計	3,515	3,591
(純 資 産 の 部)		
株 主 資 本	8,411	8,867
資 本 金	1,448	1,448
資 本 剰 余 金	1,636	1,636
利 益 剰 余 金	6,005	6,552
自 己 株 式	▲ 679	▲ 771
その他の包括利益累計額	93	▲ 10
新 株 予 約 権	25	48
非 支 配 株 主 持 分	3	3
純 資 産 合 計	8,533	8,909
負 債 及 び 純 資 産 合 計	12,048	12,500

(単位:百万円)

科 目	2015年3月期	2016年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	811	890
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 270	▲ 1,267
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 223	▲ 249
現金及び現金同等物の増加額	317	▲ 626
現金及び現金同等物の期首残高	4,185	4,502
現金及び現金同等物の期末残高	4,502	3,876

ありがとうございました

この資料には、当社の計画や見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき予測したものであります。実際の施策や業績は、今後の事業環境等の変化により異なる場合がありますため、数値等を保証するものではありません。その点をご了承くださいませ。

お問い合わせ先 IR担当 常務取締役管理本部長 牧野 信之
 管理本部マネージャー 大川 博
 042-378-1100

<http://www.ksk.co.jp>